

大石芳野写真展 2023.6.17 SAT > 8.20 SUN

戦争とは何か。平和とは何か。

戦世を いくさよ こえて

YOSHINO OISHI | PHOTO EXHIBITION

ミュゼふくおかカメラ館

清水ツル子の被爆した指（広島 1984 年）

〈カメラ常設展〉

クリミア戦争でイギリスのロジャー・フェントンが世界初の戦場写真を撮影して以来、カメラは戦争を写し、様子を伝えることで、私たちに大きな影響力を与えました。また写真技術の発展に伴い、過酷な極地での偵察や訓練にもカメラが使われるようになりました。今回は「戦争」と「カメラ」に焦点を当て、常設展過去最多となる二百点のカメラを一堂に集めました。第一次世界大戦から冷戦期までのカメラと軍の関係、戦場カメラマン、激動の時代のメーカーたち、戦後の復興期・経済成長を遂げた日本のカメラなどを時代背景とともに紹介します。全館を挙げて今を生きる私たちが「戦争」を知り、「平和」を考えるきっかけに繋がればと願います。

WAR and CAMERA

戦中戦後のカメラたち

cameras during and after the war

2023/6/17sat-12/24sun



WAR and CAMERA
cameras during and after the war

開館時間＝9:00-17:00（入館は16:30まで）

休館日＝月曜日（祝日の場合は翌平日）

入館料

一般	¥800（640）
高校生・大学生	¥400（320）
中学生以下	無料
年間パスポート	¥3,000
※年間パスポートの詳細は当館HPをご覧ください	

※（ ）は20名以上の団体料金

※土日・祝日、夏休み（7/22-8/31）は高校生無料

※65歳以上は640円（免許証などをご提示ください）

※祖父母が孫と一緒になら入館無料

（祖父母は高岡市、富山市、砺波市、南砺市、小矢部市、射水市、氷見市、滑川市、舟橋村、上市町、立山町、魚津市、黒部市、入善町にお住まいの方）

※上記の割引は併用できません。

〈アクセス〉

■公共交通機関

北陸新幹線「富山駅」－あいの風とやま鉄道「富山駅」－「福岡駅」から徒歩6分

■自動車

能越自動車道「福岡I.C.」から10分

三井アウトレットパーク北陸小矢部から15分

〈お問い合わせ〉

ミュゼふくおかカメラ館

〒939-0117 富山県高岡市福岡町福岡新 559

TEL: 0766-64-0550 FAX: 0766-64-0551

MAIL: info@camerakan.com

WEB: https://www.camerakan.com

〈展覧会の最新情報はこちら〉



カメラ館 HP はこちらから

@musee_camerakan
Instagram 始めました
SNS も 随 時 更 新 中
ID/museecamerakan

戦争はとうに終わっているはずなのに、 実はまだ終わっていないのである ―

今、ウクライナ全土が戦場となり大勢の死傷者や難民が続出し、映像などを通して私たちは直面しています。砲撃に晒される恐怖の姿に目を覆いたくなるその姿は、78 年前に終わった世界大戦、その後のベトナム戦争などにも重なります。過ぎ去った戦争から誰もが逃れられず、心身に深い傷を抱えたままです。政治の暴力である戦争に蹂躪された人びとの戦争は終わらない現実を写真で伝えたい、共有していただきたい、という思いで私は半世紀近く走り回ってきました。写真と向き合い、対話しながらご覧いただきたく思っています。

― 写真家・大石芳野



石井四郎軍医中尉の「七三一部隊」が使用していた実験、研究用の器具の数々にはこびりついた薬品も残っている〈中国ピンファン／1992 年〉



モン族のスーユータン（6 歳）ベトナム戦争当時、国民一人に 1 トンも投下された爆弾の一部が不発弾と化して 30 年以上経った現在もラオスの人びとの日常を脅かしている〈ラオス〉



強制収容所の「死の門」と呼ばれた SS（ナチス親衛隊）の中央衛兵所が前方正面に見え、その背後にはオシヴェンチム村がある〈アウシュビッツ ビルケナウ／1987 年〉

YOSHINO OISHI PHOTO EXHIBITION

戦争後を見つめるドキュメンタリーを手がけ、半世紀にわたりベトナム、カンボジア、アウシュビッツ、そして広島、長崎、沖縄… など、とりわけ戦争の悲劇に襲われた地の撮影を続ける写真家・大石芳野。その取材はベトナム戦争後に子ども時代を送った人、治療を続ける広島、長崎の被爆者など、彼らの表情に眼差しとレンズを向け、いつも寄り添います。現場の記憶を紡ぐごとく、精力的に取材し撮影してきた作品群は共通して「終わらない戦争」という強いメッセージを私たちに届けます。この夏、写真家・大石芳野がこれまで発表してきた渾身のシリーズを一堂に展示し、戦争とは何か、平和とは何かを問いかけます。



戦禍にめげず、子どもたちのはじける声が響く〈アフガニスタン〉



大石 芳野 Yoshino Oishi

東京都出身。日本大学藝術学部写真学科卒。2004 年世界平和アピール七人委員会委員。現在の研究課題は『フォトジャーナリズムの変遷と動向』・『フォトジャーナリズムから見た戦争と平和における民衆』。人々の生活が戦争や紛争で妨げられて命を奪われている惨状を世界に伝えている。著作に「沖縄に生きる」「沖縄 若夏の記憶」「それでも笑みを」「HIROSHIMA 半世紀の肖像」「カンボジア苦界転生」「ベトナム凜と」「夜と霧は今」「子ども戦世のなかで」「隠岐の国」「福島 FUKUSHIMA 土と生きる」「戦争は終わっても終わらない」「戦禍の記憶」「長崎の痕」、最新書「わたしの心のレンズ 現場の記憶を紡ぐ」（2022）他。日本写真協会年度賞（1982）、芸術選奨新人賞（1994）、土門拳賞（2001）、紫綬褒章（2007）、日藝賞（2008）を受賞。

大石芳野ギャラリートーク

○オープニングギャラリートーク
6 月 17 日（土）14：00－／カメラ館

○ギャラリートーク
7 月 9 日（日）14：00－／カメラ館

※イベントは参加無料
ただし入館料が必要
※参加申込不要



塾へ向かう中学生たちが北中城にある重要文化財である中村家の堀の横を陽気に話しながら通り過ぎる〈沖縄「さとうきび畑からの風」より〉



4 号炉の爆発と炎上で一帯は被爆し瓦礫と化したためコンクリートで覆われた。だが、作業員たちがごみを捨ててゆく陥没した箇所からは強度の放射性物質が漏れていることがわかった〈チェルノブイリ〉

〈写真展関連イベント〉 イベントは参加無料（ただし入館料が必要です）／予約申込不要

○お話し会「富山大空襲の体験と当時の暮らし・世相」
日時／ 8 月 5 日（土）14：00－
お話し／佐藤 進（富山大空襲を語り継ぐ会）

○コンサート「レクイエム」平和への祈り



日時／8月13日（日）14:00－
お話し・演奏／トロイ・グーギンズ（ヴァイオリン）
〈プロフィール〉
アメリカ・コロラド州デンバー市出身。クリーブランド音楽大学大学院卒業。山形交響楽団の招待演奏家として来日。1989 年よりオーケストラ・アンサンブル金沢第 1 ヴァイオリン奏者となる。OEK の活動、自身の小編成サロンコンサートなど年間 130 回以上の公演に出演。また地域の子供達をはじめ幅広い世代への音楽会を開催。後進の指導にも意欲的に取り組み、人とのつながりを大切にした音楽交流を広げている。

〈カメラ常設展関連イベント〉

○みんな集まれ！わくわくカメラカン 2023
常設展「WAR and CAMERA」展で夏休み限定のクイズに答えてオリジナル缶バッジをもらおう！
対 象：小・中学生
期 間：7 月 22 日（土）－ 8 月 31 日（木）
参加費：無料 ※受付にてお声がけください

戦世をこえて